

2025年度 一般社団法人日本老年看護学会 生涯学習支援研修
認知症看護対応力向上研修フォローアップ研修 報告書

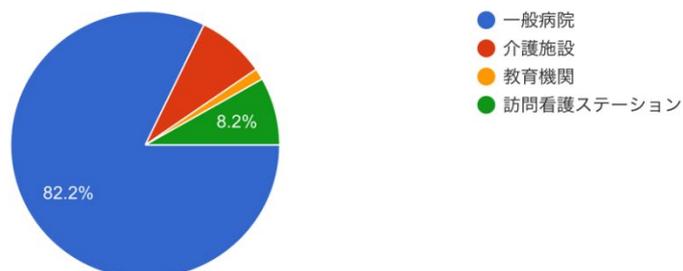
2026年2月1日

担当委員：熊倉、齊田、酒井、飯山

1. 開催日時：2026年1月24日（土）
①午前の部 9:00～12:00 ②午後の部 13:30～16:30
2. 開催形態：オンライン（zoom）
3. 参加者数 79名（会員：63名 非会員：16名）
4. テーマ：認知症の人とのコミュニケーションを共に考えスタッフ育成に活かしませんか？
5. プログラム
講義 認知症の人に“安心”と“心地よさ”を届けるコミュニケーション
—「伝える」から「届ける」看護技術へ—
講師：杉本智波（南福岡脳神経外科病院 医療教育部／脳卒中看護認定看護師）
演習（ロールプレイ，全体共有とディスカッション）
6. アンケート結果（73名 回収率92%）

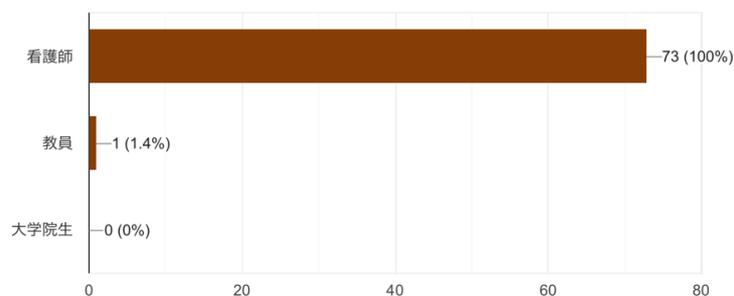
2.現在の勤務先

73件の回答



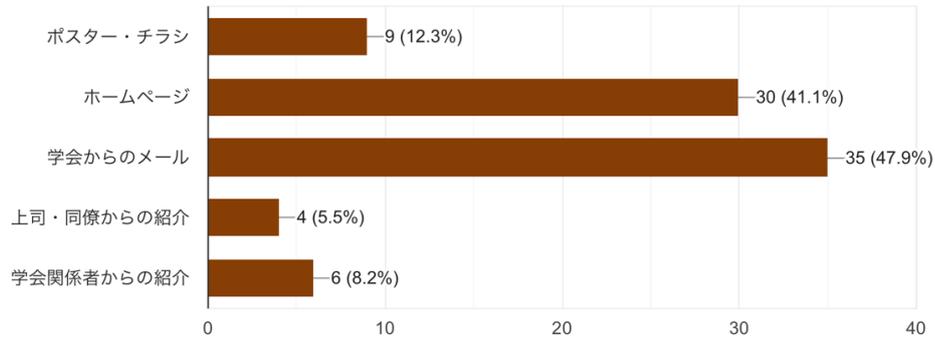
3.職種

73件の回答



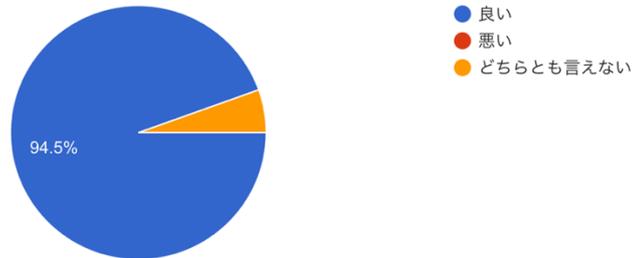
5.この研修をどのように知りましたか（複数回答可）

73件の回答



6.研修開催時期

73件の回答



7.問6の理由を教えてください。また、希望時期があれば御記入ください

1) 開催時期が業務と重ならず参加しやすかった

- ・ 学会開催シーズンから外れており、他のイベントごととも重なっていなかった
- ・ 年度初めや年度末（4月・3月・2月）と比べ、1月・12月は業務量が比較的落ち着いている
- ・ 年明けは比較的業務に余裕があり、休みの勤務希望が出しやすかった
- ・ 学校や地域の行事と重ならず、参加しやすい時期であった
- ・ この時期は高齢者に関する研修開催が少なく、貴重であった
- ・ 人員減の時期と重なったという意見もあったが、概ね参加しやすい時期との声が多かった

2) 勤務状況に配慮された時間設定であった

- ・ 自己の勤務状態と合っていた
- ・ 勤務の都合がつけやすい時間であった
- ・ 土曜日開催であり、休日は参加しやすかった
- ・ 土曜9時開始は、午後を有効活用できるため参加しやすいと感じた
- ・ 半日で終了する点はありがたかった

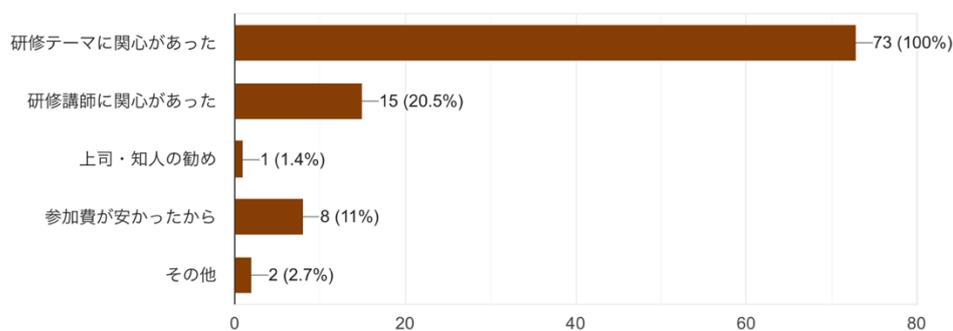
3) 午前・午後を選択できる点が評価された

- ・ 午前・午後の選択肢があり、仕事が休めない状況でも参加できた

- ・ 午前、午後の選択ができることが良かった
 - ・ 個人の都合に合わせて午前・午後を選択できたことに感謝する
- 4) オンライン (Web/Zoom) 開催による参加しやすさ
- ・ Zoom 研修であったため、負担なく参加できた
 - ・ Web 研修のため、時期に関係なく参加しやすかった
 - ・ 開催時期については特に問題なく、オンライン開催が参加しやすさにつながっていた
- 5) 研修内容・タイミングが実践に活かしやすかった
- ・ 認知ケア向上研修会終了後、半年というタイミングがちょうどよかった
 - ・ 対応力向上研修終了後の時期として適切であった
 - ・ 新年度の教育計画を立てるにあたり、この時期に受講できた内容を活かしやすかった
 - ・ 年度末に向けて部署の課題が見えやすい時期であり、参考になった
 - ・ 次年度の研修内容を考えるヒントになった
- 6) その他の意見
- ・ 講義と演習の時間配分が良かった
 - ・ ユマニチュードが何に役立つのか理解できた
 - ・ 悩みながら活動していたため参考になった

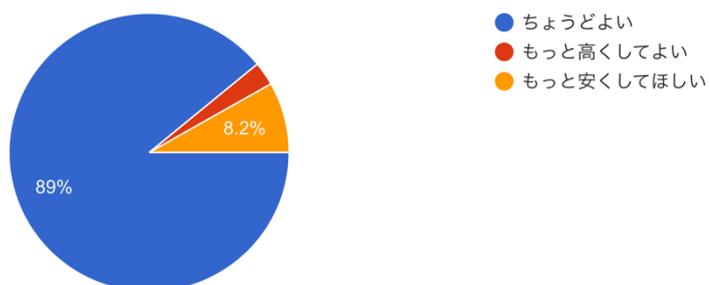
9. 受講動機 (複数回答可)

73 件の回答



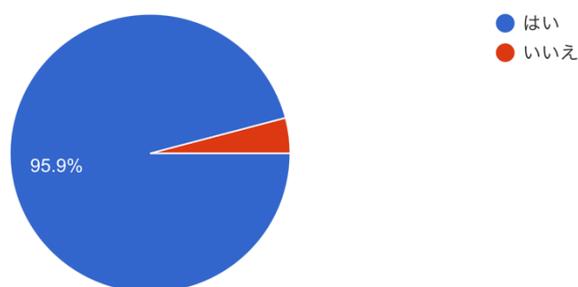
10. 参加費

73 件の回答



11.本日の研修は期待通りでしたか

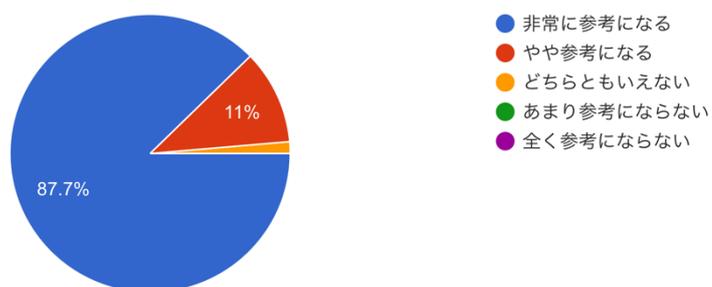
73件の回答



*2名はその後の回答が参考になるとの回答であり、選択間違いの可能性はある。

12.本日の研修は今後の看護の参考になるとおもいますか

73件の回答

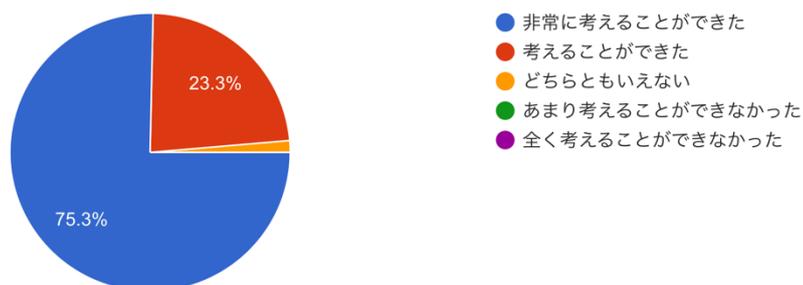


13. 問11の理由を教えてください

- 1) 脳科学的な視点により「根拠」が理解できた
 - ・ 情報処理や反応の根拠が分かり、理解が深まった
 - ・ 脳神経・脳の働きから認知機能を知ることができた
 - ・ 脳科学の視点から、認知症ケアやコミュニケーションを考えることができた
 - ・ 脳科学と患者の言動がつながっており、分かりやすかった
 - ・ 脳の機能を踏まえた具体的なケア方法で、明日から実践できそうと感じた
- 2) 「根拠をもって考え、伝える」重要性を再認識できた
 - ・ 根拠を持って考えることの必要性を学ぶことができた
 - ・ ケアのスキルだけでなく、そのケアを他スタッフに推進する方法を学べた
 - ・ ユマニチュードの技術を根拠をもって説明すると、説得力が増すことがよく分かった
 - ・ 看護者のコミュニケーションが、不安やストレスにつながることを現場スタッフにどう伝えるか学べた
 - ・ ケアの提案時に根拠として理解しやすく、受け入れてもらいやすいと感じた
- 3) ロールプレイ・グループワークによる学びと振り返り
 - ・ ロールプレイを通して、自分自身の看護の振り返りができた

- ・ ロールプレイやグループワークが勉強になった
 - ・ 日常の現場でよくある事例であり、参考になった
 - ・ 他院で活躍している専門看護師・認定看護師の実際の活動を、ロールプレイを通して知ることができた
- 4) 認知症の人の「反応・拒否・困りごと」への理解が深まった
- ・ 「患者がケアを拒否する」背景について理解の助けになった
 - ・ 認知症患者の困りごとを、脳科学的にアセスメントする視点を得た
 - ・ 快・不快を考えたケアの重要性を再認識できた
 - ・ 相手の反応を見るという基本を思い出すことができた
 - ・ 興奮している患者への対応について、具体的に考えるきっかけとなった
- 5) 現場ですぐに活かせる・実践につながる内容であった
- ・ 現場に直結できる内容でよかった
 - ・ 実践ですぐに活かせる内容だった
 - ・ ちょっとした工夫ででき、根拠が分かりやすかった
 - ・ 現場での手詰まり感を解決できるのではという希望が持てた
 - ・ 明日から自身の活動に取り入れられる内容が多かった
- 6) 教育・指導・相談対応に活かせる視点を得られた
- ・ 認知症ケアについて、どのように他者へ伝えていけばよいか考えられた
 - ・ スタッフ指導の際に、根拠づけた説明のヒントを得ることができた
 - ・ どのような視点で提案すると効果的か考えることができた
 - ・ 相談内容への返答の視点を学ぶことができた
- 7) 講師・構成・研修全体への評価
- ・ 講義内容が分かりやすく、動画などもあり理解しやすかった
 - ・ 講師の具体的で納得のいくメッセージが活用できると感じた
 - ・ 別分野の認定看護師による講義で、視点が斬新でよかった
 - ・ 期待以上で、関わり方への学びの意欲が高まった
 - ・ とても良かった、新たな視点で考える機会となった

14.演習を通して、認知症の人とのコミュニケーションについて考えることはできましたか
73件の回答



15. 問 14 の理由を教えてください

- 1) 演習・ロールプレイを通して、日々のコミュニケーションを振り返ることができた
 - ・ 演習の内容が、実際に現場でよく遭遇する場面であり、自身の関わりを振り返ることができた
 - ・ ロールプレイを通して、これまでのコミュニケーションが本当に相手に届いていたのかを考える機会となった
 - ・ 良かれと思って行っていた関わりが、患者にとっては不安や不快につながっていた可能性に気づいた
 - ・ 日頃の実践を立ち止まって見直す、よい機会となった
- 2) 認知症の人の「情報の受け取り方」を意識して考えることができた
 - ・ 認知症の人は情報は入っても、選択・分析する力が低下していることを演習を通して実感した
 - ・ 情報量が多いことが、不安や恐怖を強めてしまう可能性があることと理解できた
 - ・ どの程度の情報を、どのように伝えと相手に届くのかを考えるようになった
 - ・ 「伝える」ではなく「届くコミュニケーション」を意識する必要性を感じた
- 3) 相手の反応を見ながら関わることの重要性を再認識できた
 - ・ 相手の反応を確認しながら関わることの大切さを、演習を通して改めて理解した
 - ・ 目線、声のかけ方、触れ方など、些細な関わりが相手の安心感に影響することに気づいた
 - ・ ケアは「相手の脳に届いているか」を考えて行う必要があると感じた
 - ・ ノンバーバルメッセージの重要性を、理由とともに理解することができた
- 4) 他者の意見や視点から、コミュニケーションを多角的に考えることができた
 - ・ グループワークや意見交換を通して、自分にはなかった視点に気づくことができた
 - ・ 患者、家族、看護師それぞれの立場からコミュニケーションを考えることができた
 - ・ 他者の考えを聞くことで、自身の関わりを相対化して考えられた
 - ・ チームで共有する際の伝え方についても考えるきっかけとなった
- 5) 演習を通して、今後のコミュニケーションの工夫を考えることができた
 - ・ 認知症の人が安心して力を発揮できる関わりとは何かを考えることができた
 - ・ 心地良さや安心を意識したコミュニケーションの必要性を再認識した
 - ・ ユマニチュードを用いた関わりが、反応を見ながら調整できる方法であると理解できた
 - ・ 今後の現場での関わり方や、スタッフへの伝え方を考えるきっかけとなった

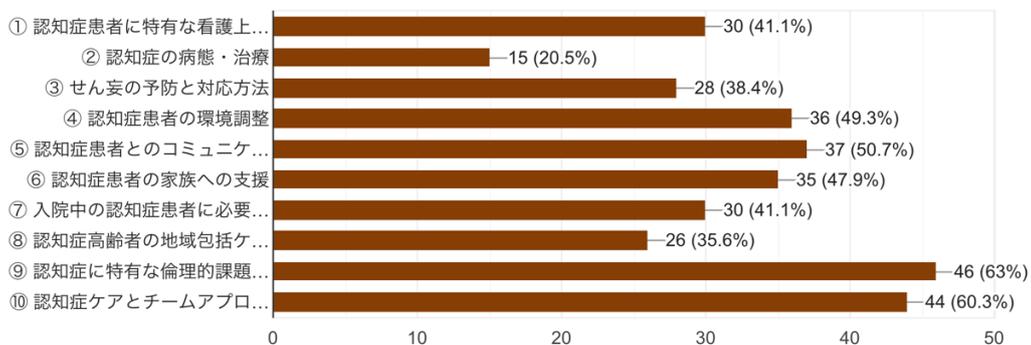
16. 今後も本学会主催の研修に参加したいと思われませんか

73件の回答



17. 研修として取り上げて欲しいテーマを教えてください（複数選択可）

73件の回答



18. 問 16 以外で取り上げて欲しいテーマがございましたら教えてください

- 1) ユマニチュード・コミュニケーション技法の深化
 - ・ ユマニチュードをさらに学びたい
 - ・ 認知症の人への具体的なコミュニケーション方法を深めたい
- 2) せん妄・BPSD・暴力行為への対応と倫理的ジレンマ
 - ・ せん妄や BPSD により、スタッフへの暴力が生じ、治療継続や再入院が困難となる事例への対応
 - ・ 病院としての安全確保の立場と、患者・家族の尊厳や治療を受ける権利との間でのジレンマ
 - ・ そのような状況において、認定看護師としてどのように考え、行動すべきかを学びたい
 - ・ 指導不足を感じており、現場への具体的な支援や関わり方を知りたい
- 3) 身体拘束最小化への取り組み
 - ・ 認知症患者の身体拘束最小化
 - ・ 身体拘束最小化の具体的な実践方法
 - ・ 医療安全・管理者を含めたチームアプローチとしての身体拘束最小化
- 4) 認定看護師の役割・活動方法

- ・ 認定看護師としての活動の方法を知りたい
 - ・ 難渋事例への関わり方や事例検討の進め方
 - ・ 認定看護師としての判断や実践をどのように現場に展開していくか
- 5) スタッフ教育・巻き込みの工夫
- ・ 認知症ケアに興味・関心が低い看護職をどのように巻き込んでいくか
 - ・ 現場全体の認知症ケアの質を高めるための教育的アプローチ
- 6) 認知症に関する制度・価値観を踏まえたテーマ
- ・ 認知症の人の ACP (アドバンス・ケア・プランニング)
 - ・ 認知症基本法について理解を深めたい

19. 本日の研修への御意見・御感想を教えてください

- 1) 研修全体への満足度・感謝の声
- ・ 短い時間ではあったが、非常に有意義で学びの多い研修であった
 - ・ とても勉強になり、期待以上の研修であった
 - ・ 講義、ロールプレイ、グループワークともに素晴らしかった
 - ・ 明日からの実践に直接活かせる内容であった
 - ・ 企画・運営・講師への感謝の声が多く寄せられた
- 2) 脳科学的視点からの講義が分かりやすく、理解が深まった
- ・ 脳科学的に捉えることの大切さを学ぶことができた
 - ・ 脳の機能から認知機能を理解することで、ケアの根拠が明確になった
 - ・ 認知症を脳科学的にアセスメントするという新たな視点が新鮮であった
 - ・ 情報処理能力や行動分析とケアを結びつけて理解できた
 - ・ 科学的根拠に基づいた療養上の世話の考え方に感銘を受けた
- 3) ユマニチュードの理解が深まり、実践への意欲が高まった
- ・ ユマニチュードと脳科学を結びつけて理解できた
 - ・ ケアを拒否される背景を情報処理の視点から考えられた
 - ・ 「快・不快」「安心・心地よさ」がなぜ重要なのか意味づけられた
 - ・ ユマニチュードの技術を根拠をもって説明できれば、現場に広がると感じた
 - ・ 心地よさが回復の武器になるという考え方を大切にしたいと感じた
- 4) ロールプレイ・グループワークによる学びと振り返り
- ・ ロールプレイやグループワークを通して、自身の看護・コミュニケーションを振り返ることができた
 - ・ よくある場面設定で、リアリティがあり分かりやすかった
 - ・ 他院で活躍している専門職の意見を聞くことができ、学びが深まった
 - ・ 体感的に理解できたことで、実践のイメージがしやすかった
 - ・ グループワークがありがたく、有意義であった
- 5) 「相手の反応を見る」「届けるケア」を再認識できた

- ・ 「相手の反応を見る」という基本の大切さを再認識した
 - ・ 自分たちのケアが、相手にどう届いているのかを考える必要性に気づいた
 - ・ 看護者の関わり方が、不快やストレスにつながる可能性を考える機会となった
 - ・ 強制ケアではなく、心地よいケアへ変えていきたいと感じた
- 6) スタッフ教育・現場への展開につながる学び
- ・ スタッフへどのように伝えていくかのヒントを得た
 - ・ 根拠をもって説明することの重要性を再認識した
 - ・ 病棟や院内に研修内容を伝え、実践につなげていきたい
 - ・ 認定看護師として、現場スタッフと一緒に困りごとを考える役割の重要性を感じた
- 7) 時間配分・運営に関する意見・要望
- ・ ロールプレイやグループワークの時間をもう少し確保してほしい
 - ・ グループワークがややタイトに感じた
 - ・ 事例ごとの時間配分について工夫の余地があると感じた
 - ・ ファシリテーターによる進行の支援があると、よりよかった
 - ・ スライドが見づらい場面があり、資料配布等の工夫が望まれた
- 8) オンライン開催・環境面について
- ・ オンライン開催により、参加のハードルが下がった
 - ・ 今後もオンライン研修を継続してほしい
 - ・ Zoom 機器トラブル対応について謝意・配慮の声があった
- 9) 今後への期待・さらなる学習意欲
- ・ 杉本先生の講義をもっと聞きたかった
 - ・ さらに学びを深めたい、続編の研修にも参加したい
 - ・ 家族対応や暴言・暴力事例など、より困難な場面への支援も学びたい
 - ・ 認知症ケアにおいて大切な視点を改めて得ることができた

7. 総括

本研修は、脳科学的根拠に基づく講義と演習を組み合わせることで、参加者が認知症の人とのコミュニケーションを具体的に振り返り、「安心と心地よさを届けるケア」について考える機会となった点が高く評価された。一方で、演習時間やグループワークの進行、資料提示方法については改善の余地が示され、次回研修の企画に向けた示唆が得られた。